

# 日本気象学会 2011年度春季大会

会期：2011年5月18日（水）～21日（土）

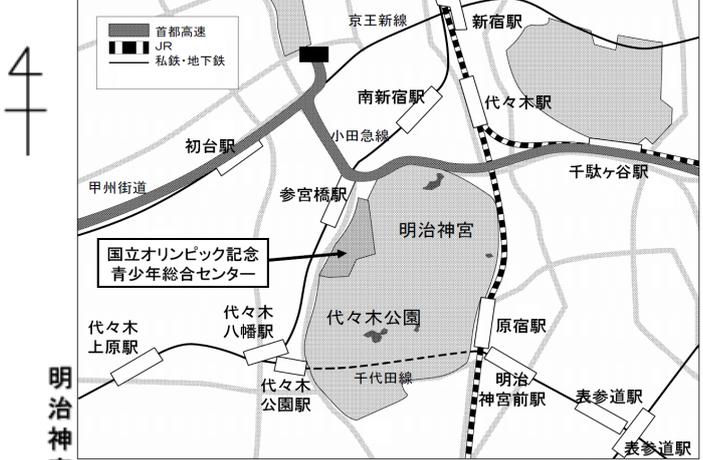
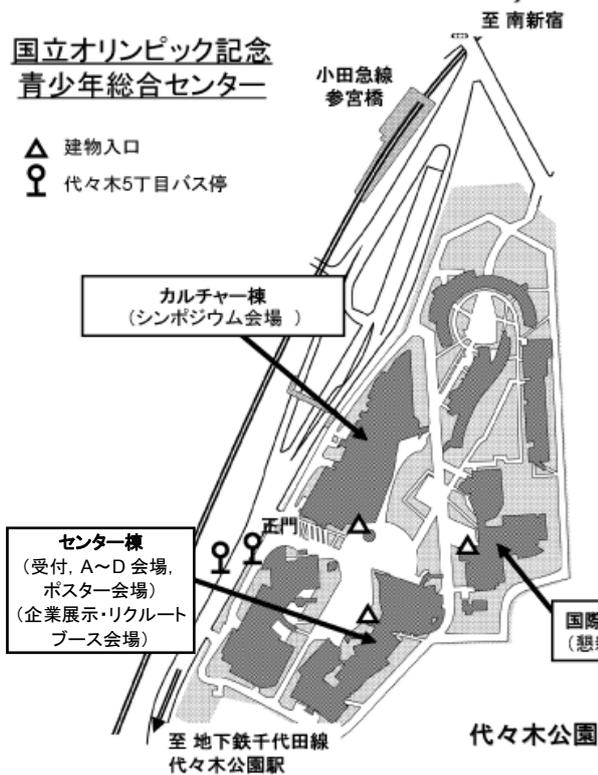
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3番1号）  
（<http://nyc.niye.go.jp/index.html>）

大会実行委員会担当機関：東京大学（大学院理学系研究科・先端科学技術研究センター）  
国立極地研究所

大会委員長：佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（405会議室：センター棟 4F）  
TEL 090-5104-0587（大会期間中のみ有効）  
※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板上に掲示します。  
取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

## 会場案内図



### [交通手段]

○小田急線:

「参宮橋」駅下車 徒歩7分

○地下鉄千代田線:

「代々木公園」駅下車 徒歩10分

○京王バス:

1. 新宿駅西口 16番より「代々木 5丁目」下車
2. 渋谷駅西口 14番より「代々木 5丁目」下車

# 大会行事予定

A会場 : セミナーホール417 (センター棟 4F)      総会・記念講演・シンポジウム : 大ホール (カルチャー棟)  
 B会場 : 309会議室 (センター棟 3F)      受付 : 416会議室 (センター棟 4F)  
 C会場 : 310会議室 (センター棟 3F)      大会事務局 : 405会議室 (センター棟 4F)  
 D会場 : 311会議室 (センター棟 3F)      懇親会 : レセプションホール (国際交流棟)  
 ポスター会場 : 401・402・403会議室 (センター棟 4F)      休憩室 : 107・108会議室 (センター棟 1F)  
 (企業展示会場・リクルートブース併設)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 18日 (水)	10:00～ 11:30	降水システムI ( 8, A101～A108)	気候システムI ( 8, B101～B108)	境界層 ( 9, C101～C109)	惑星大気 ( 6, D101～D106)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (38, P101～P138)			
	13:30～ 17:00	専門分科会 (11, A151～A161) 「気象庁が提供する気象データの利用と数値モデル開発の現状・課題」	専門分科会 ( 9, B151～B159) 「衛星搭載マイクロ波放射計と雲・降水システム研究」	専門分科会 (14, C151～C164) 「ウィンドプロファイラの現状と将来」	専門分科会 (14, D151～D164) 「2010年夏の異常気象」
5月 19日 (木)	09:30～ 11:30	降水システムII (11, A201～A211)	物質循環 ( 5, B201～B205) 気象教育 ( 3, B206～B208)	境界層II ( 5, C201～C205) 気候システムII ( 6, C206～C211)	大気力学 (10, D201～D210)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (38, P201～P238)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 20日 (金)	09:30～ 11:30	降水システムIII (11, A301～A311)	中緯度大気 (10, B301～B310)	熱帯大気 (11, C301～C311)	エーロゾル (11, D301～D311)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (38, P301～P338)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「変動する地球気候の鍵 —南極・北極—」			
5月 21日 (土)	09:15～ 11:30	降水システムIV (12, A401～A412)	気象予報 (11, B401～B411)	気候システムIII (11, C401～C411)	放射 ( 7, D401～D407)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (38, P401～P438)			
	13:30～ 17:00	専門分科会 (13, A451～A463) 「柳井迪雄先生追悼特別セッション: 熱帯気象学の明日へ向けて」	公開気象講演会 「航空安全のための気象学」	専門分科会 ( 8, C451～C458) 「「ひまわり 8号, 9号」が拓く新しい気象学」	専門分科会 (12, D451～D462) 「AR5に向けた気候変化予測の現状」

発表件数 : 388件 (専門分科会81, 口頭発表155, ポスター152)

※ 大会4日目(5月21日)の開始時間 (09:15)にご注意ください。

※ 各休憩室では一度に6名まで有線LAN接続が可能です (接続ケーブルは実行委員会で用意). 売店 (宿泊D棟1F) でプリペイドカード (¥500) を予めご購入下さい. カード1枚で初期ログイン時より24時間後まで接続が可能です.

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には, 日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません. ただし著作者自身による利用の場合は, 利用許諾の申請は不要です.

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは, 〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: kouenkikaku2011s@metsoc.jp) まで.

## 講演の方法

### 一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は10分（講演8分・質疑2分）です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンピーナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
  - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
  - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
  - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

### ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦150 cm×横180 cmとなっています。なお、ポスターボードの脚の高さは約50 cmです。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋏をお使い下さい。必要な画鋏は講演者自身でご用意ください。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第1～3日目は 09:00～17:30、大会第4日目は09:00～16:00です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

---

## シンポジウム「変動する地球気候の鍵 —南極・北極—」

日時：大会第3日（5月20日）13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

司会：近藤 豊（東京大学大学院理学系研究科）

### 趣旨：

地球規模の温暖化など気候・環境変動が問題となるなか、南極・北極はその要の場所となっている。巨大な氷床の存在、広大な海氷域の広がり、大気や海洋の大循環を通じて、極域は地球規模変動の要因を生み出す場所であるとともに、地球規模の様々な変動からの影響が増幅されて現れ得る場所でもある。南極・北極は同じように振る舞うこともあるが、同じ極域でも異なった応答をすることもある。北極の変化が南極に伝わったり、そのまた逆も見られたり、両者の関係は極めて複雑かつ興味が尽きないものである。今般、南極昭和基地に大型大気レーダーが建設され観測が開始されたことを機会に、極域が地球規模変動の中でいかなる役割を果たし得るのか、単に気象学の分野にとどまらず、広く雪氷学・海洋学・古気候学・生命科学にまで議論を拡張したい。

### 基調講演：

- 1) 「新しい南極昭和基地大型大気レーダー（PANSY）から見えるもの」  
佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科）
- 2) 「近年の極域海洋変動と淡水循環の役割」  
青木 茂（北海道大学低温科学研究所）
- 3) 「氷床を巡る生物探査と地球規模気候変動」  
伊村 智（国立極地研究所）
- 4) 「氷床コアから見た南北気候のつながり」  
川村 賢二（国立極地研究所）
- 5) 「気候変化における北極と南極の応答と役割：過去と将来」  
阿部 彩子（東京大学大気海洋研究所）

### 総合討論

# 総 会

日時：大会第2日（5月19日）13:30～15:20

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

## 議事次第

1. 開会
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 2011年度学会賞授与
5. 2011年度藤原賞授与
6. 2010年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞の報告
7. 議事
  - (1) 2010年度事業報告
  - (2) 2010年度収支決算報告
  - (3) 2010年度監査報告
  - (4) 理事の辞任に伴う後任の推薦について
  - (5) 第36期日本気象学会名誉会員候補の推薦につ
8. 報告
  - (1) 公益社団法人移行について
  - (2) その他
9. 議長解任
10. 閉会

## 専門分科会の概要紹介

2011年度春季大会では下記の通り、7件の専門分科会が開かれます。

### 気象庁が提供する気象データの利用と数値モデル開発の現状・課題

日時：大会第1日（5月18日）13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：気象学会と気象庁との間で、包括的な共同研究契約である、気象研究コンソーシアムが締結されて3年が経過しました。コンソーシアムでは、全球・メソ・アンサンブルといった数値予報データ、全球二酸化炭素分布データ、MTSATのラピッドスキャンデータなどを有効活用し、最先端の研究とその成果の社会還元を促進することを目的としています。この専門分科会では、

1. データ同化と数値モデルの改良、精度向上に関する研究
2. 数値予報の出力結果を利用する研究
3. 新しいデータ（二酸化炭素やMTSATラピッドスキャン）を用いた研究

などに関する講演を募集し、これらデータの研究への寄与と今後の課題について討議いたします。

コンピーナー：岩崎俊樹（東北大学大学院理学研究科）、余田成男（京都大学大学院理学研究科）、加藤輝之（気象庁数値予報課）

### 衛星搭載マイクロ波放射計と雲・降水システム研究

日時：大会第1日（5月18日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：日本は窓領域のマイクロ波を観測する衛星搭載マイクロ波放射計のハードウェアでは世界のトップレベルにある。例えば、JAXAが開発した「改良型高性能マイクロ波放射計（AMSR-E）」は、NASAのAqua衛星（2002年5月打ち上げ）に搭載され、2010年10月現在も稼働

している。この後継の「高性能マイクロ波放射計2（AMSR2）」を搭載した、JAXAのGCOM-W衛星の打ち上げが2011年度に予定されている。ところが、この豊富で多様な衛星搭載マイクロ波放射計観測データを利用する研究者は、我が国では非常に少ないのが現状である。本分科会は、衛星搭載マイクロ波放射計のハードウェア、雲・降水アルゴリズム等の基本的なReviewと、放射計を中心とした衛星搭載マイクロ波センサによる最近の雲・降水システム等の研究の紹介部分との2部構成とし、この分野の大きな可能性について議論したい。  
コンピーナー：青梨和正（気象研究所）、中村健治（名古屋大学地球水循環研究センター）、沖 理子（宇宙航空研究開発機構）、今岡啓治（宇宙航空研究開発機構）、高橋暢宏（情報通信研究機構）、高藪 縁（東京大学大気海洋研究所）、重 尚一（京都大学大学院理学研究科）

### ウィンドプロファイラの現状と将来

日時：大会第1日（5月18日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：2001年4月に運用を開始した気象庁の局地的気象監視システム（WINDAS：ウィンドプロファイラ（WPR）網）は、2011年に10周年を迎える。現業用ウィンドプロファイラとして、国内では気象庁業務（メソ数値予報モデル、実況監視など）や関係機関、研究目的でも利用されるほか、GTS（全球通信システム）回線を経由して国際的にも利用されている。運用開始10周年を記念した専門分科会を開催し、WINDASの成果報告と共に研究ベースで実施されている高度利用についても議論する。以下の内容で招待講演と一般講演で構成し、気象学会会員に対する情報提供を主体とした分科会とする予定である。

- ・WPRの基礎
- ・気象庁のWPR網の特徴
- ・WPRの高度利用(湿度情報や降水観測への活用等)
- ・次世代WPR(多重化、イメージング等の最新技術関連)

コンピーナー：赤枝健治(気象庁観測部)，小林隆久(気象研究所)，橋口浩之(京大生生存圏研究所)，水野量(気象庁観測部)

## 2010年夏の異常気象

日時：大会第1日(5月18日) 13:30~17:00

場所：D会場

趣旨：2010年夏の日本の平均気温は、1898年の気象庁統計開始以来、最も高い記録となった。特に8月の国内平均気温平年差は+2.25度とこれまでの記録(1994年の+1.87度)を大きく更新した。世界に目を向けてみると、ロシアの熱波、パキスタンの大雨、南米の寒波など各地で異常気象が頻発しており、地球規模の大きな変動であったことが分かる。なぜこのように大きな振幅の変動が生じたのか、その要因を解明することは、サイエンスとして興味深いだけでなく、広く国民の安心安全を実現するため、気象学研究に従事する我々に課せられた責務であろう。この分科会では、2010年夏季の日本付近に異常高温をもたらした直接および間接的要因に関する研究成果を交換し、議論の場を提供すると同時に、今後の異常気象研究の出発点としたい。

コンピーナー：釜堀弘隆(気象研究所)，楠昌司(気象研究所)，本本昌秀(東京大学大気海洋研究所)，中村尚(東京大学先端科学技術研究センター)，向川均(京都大学防災研究所)，立花義裕(三重大学大学院生物資源学研究所)，前田修平(気象庁気候情報課)

## 柳井迪雄先生追悼特別セッション：熱帯気象学の明日へ向けて

日時：大会第4日(5月21日) 13:30~17:00

場所：A会場

趣旨：UCLA名誉教授でいらした柳井迪雄先生は2010年10月13日に急逝されました。柳井先生は、日米の熱帯気象学をリードされ、特に台風解析、赤道波、雲を含む熱バランス解析(Q1, Q2)、チベット気候、モンスーン、などに関して大変重要な概念と功績を残されました。また、亡くなる直前までインターネットを通じて発行され続けたTropical Meteorology Newsletterは、世界の熱帯気象学者に最新の熱帯気象研究情報を届け、日本の気象研究者を力強く応援してくれました。柳井迪雄先生の偉大な功績を偲び、熱帯気象学の最近の発展と将来展望に

ついて議論するための特別セッションを提案します。

コンピーナー：高藪縁(東京大学大気海洋研究所)，佐藤正樹(東京大学大気海洋研究所)，大内和良(海洋研究開発機構)

## 「ひまわり8号、9号」が拓く新しい気象学

日時：大会第4日(5月21日) 13:30~17:00

場所：C会場

趣旨：2015年度から運用を開始する予定の「ひまわり8号、9号」は、他の静止気象衛星運用国に先駆けて、最先端の観測を実現すべく計画された衛星である。可視・赤外放射計のチャンネル数は現行の5から16へと飛躍的に増え、観測頻度は全球で10分毎、特に日本付近では2.5分毎(ラピッド・スキャン観測)へと強化される。これらの機能強化により、気象業務の実利用として台風や局地的大雨などの顕著現象の実況監視能力の向上やデータ同化を通じた数値予報モデルの予測精度の向上などが期待されるとともに、気象学の発展の観点からも極軌道衛星等との複合観測による大気現象のメカニズム解明や気候変動の監視・解析などへの活用の期待が高まっている。新衛星についての情報提供の後、「ラピッド・スキャン観測」、「新センサーの活用」、「数値モデルへの同化」の3つのサブテーマおよび「総合討論」により、新衛星が果たすべき役割について広く議論したい。

コンピーナー：大野智生(気象庁気象衛星センター)，中島孝(東海大学情報技術センター)，岡本幸三(気象研究所)，増田一彦(気象研究所)

## AR5に向けた気候変化予測の現状

日時：大会第4日(5月21日) 13:30~17:00

場所：D会場

趣旨：気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第1作業部会では、第5次評価報告書(AR5)の2013年公開を予定している。各国研究機関においては、第5期結合モデル相互比較実験(CMIP5)のプロトコルに従い、AR5に向けて新しい温室効果気体排出シナリオを用いた気候変化予測実験を鋭意進めている。本分科会では、モデル初期値化を伴う近未来気候変動予測、地球システムモデルによる長期気候変化計算、高解像度大気モデルを用いた極端現象予測といった新たなアプローチから得られる最新成果や科学的課題について、さまざまな角度から議論することを目的とする。

コンピーナー：本本昌秀(東京大学大気海洋研究所)，鬼頭昭雄(気象研究所)，石井正好(気象研究所)，河宮未知生(海洋研究開発機構)，渡部雅浩(東京大学大気海洋研究所)

## 公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は事前申込みが必要です。詳しくは大会ホームページ(<http://msj.visitors.jp/>)をご覧ください。

参加は無料です。

日時：2011年5月21日(土)(大会第4日) 13:30~17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
309会議室(センター棟3F)(大会B会場)

テーマ：「航空安全のための気象学」

主催：社団法人 日本気象学会  
教育と普及委員会・航空気象研究連絡会

後援：一般社団法人 日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会 2011 年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や気象情報の利用についてわかりやすく解説することを目的とした公開気象講演会を開催しています。今回は教育と普及委員会・航空気象研究連絡会との共催で「航空安全のための気象学」をテーマに取り上げます。航空機の安全運航のためには気象情報が必要になります。また、飛行場や航空路の大気現象を対象とした航空気象は、一般を対象とした気象観測や天気予報とは異なる特殊性や困難性を持っています。講演会では、航空気象の研究や、情報の発信、管制や運航の現場での利用等、さまざまな立場から航空気象に携わられている方々から、航空気象の歴史・概要や、最新の研究・技術を紹介していただくとともに、情報が実際にどのように状況判断に用いられるか、今後どのような情報が出るのか、また必要なかを議論いただきたいと思います。ふるってのご参加をお願いします。

テーマおよび講演者：

1. 「進化した飛行機にはメソスケールの知識が必要である」  
日本航空機操縦士協会顧問 中山 章氏
2. 「航空機の安全運航を支援する気象庁の航空気象情報」  
気象庁総務部航空気象管理官 田畑 明氏
3. 「TBD」  
国土交通省航空局担当官（予定）
4. 「気象情報の利用と安全運航 ～運航管理の視点から～」  
日本航空株式会社気象グループ 浦 健一氏
5. 「気象情報の利用と安全運航 ～パイロットの視点から～」  
日本航空機操縦士協会航空気象委員長 山本秀生氏

問い合わせ先：氏家将志（気象庁）

TEL: 03-3212-8341（内線 3309）

E-mail: [ujjie@met.kishou.go.jp](mailto:ujjie@met.kishou.go.jp)

## 研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 第35回メソ気象研究会

日時：2011年5月17日（火）（大会前日）13:15～17:30

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「メソ気象研究の将来展望・構想」

コンピーナー：新野 宏（東大地球海洋研）、加藤輝之（気象庁数値予報課）

内容：1991年から始まったメソ気象研究会は今年で20周年を迎える。この間、様々な新しい観測機器が開発され、現業観測にもドップラーレーダーやウィンドプロファイラ網、雷監視システムなどが導入されてきた。また、電子計算機の発展と共に、従来は夢でしかなかった竜巻までもが再現できる高解像度の数値シミュレーションが可能となると共に、GPS可降水量などの新しい観測データを用いた同化手法・メソアンサンブル予報なども開発されてきた。しかし、1998年から2003年にかけて戦略的基礎研究（CREST）による「メソ対流系の構造と発生・発達メカニズムの解明」の研究が行われて以来、メソ気象に関する大規模な観測実験はほとんど行われていない。今回の研究会では20周年を機に、メソ気象研究の将来に関する展望と夢を現象・手法・研究体制や気象庁との関わり方など様々な観点から話題提供いただき、今後のメソ気象研究を推進する方向性について議論していただくことにしたい。

プログラム：

13:15-13:45 新野 宏（東大地球海洋研究所）「趣旨説明と基調講演」

13:45-14:15 吉崎正憲（海洋研究開発機構）「戦略基礎メソ対流系から得たものおよびその発展」

14:15-14:40 石原正仁（気象研究所気象衛星・観測システム研究部）「観測システムの将来像 - 観測屋のなすべき事 -」

休憩

14:55-15:20 藤吉康志（北海道大学低温研究所）観測システムの将来像 - 質と量 -」

15:20-15:45 齊藤和雄（気象研究所予報研究部）「メソスケールのデータ同化とアンサンブル研究」

15:45-16:10 坪木和久（名古屋大学地球水循環研究センター）「観測と数値モデルもつと基礎研究と発見を」

16:10-16:35 加藤輝之（気象庁数値予報課）「気象庁や他分野との関わり方」

休憩

16:50-17:30 総合討論（パネルディスカッション）

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象庁数値予報課）、小倉義光（東大地球海洋研）

連絡先：加藤輝之（気象庁数値予報課）

E-mail: [teruyuki\\_kato@met.kishou.go.jp](mailto:teruyuki_kato@met.kishou.go.jp)

注意事項：自家用車でのご来庁はご遠慮下さい。正面玄関（KK R東京側）をご利用ください。研究会の受付で名札を受け取り、着用して下さい。

### 第10回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2011年5月18日（水）（大会第1日）17:30～19:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター  
センター棟3F 309会議室（大会B会場）

内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を主な研究対象とし、以下の目的により活動を行っています。  
\* 陸域圏における物理的、生物的諸過程の理解に向けた、広い視野に立った研究のための情報交換  
\* 陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明

- \*直接観測，間接観測，およびモデリングの融合
- \*空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決
- \*正確な現状の認識と，実質的に意味のある手法の開発
- \*それらのための研究協力関係の構築

今回は，乾燥圏研究に焦点をあて，3名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

#### 講演者および講演題目（敬称略）：

篠田雅人（鳥取大学）

「干ばつメモリの動態：フィールド実験の意義」

中野智子（中央大学）

「半乾燥草原生態系におけるCO<sub>2</sub>収支の推定」

飯島慈裕（海洋研究開発機構）

「寒冷圏陸域の地温・土壌水分メモリ」

世話人：馬淵和雄（気象研），大谷義一（森林総研），奈原顕郎（筑波大），伊藤昭彦（国環研），佐藤 永（名大），大石龍太（東大），立入 郁（海洋研究開発機構）

代表連絡先：馬淵和雄（気象研）

TEL：029-853-8722，FAX：029-853-8728

E-mail：kmabuchi@mri-jma.go.jp

### オゾン研究連絡会

日時：2011年5月18日（水）（大会第1日）17:30～2時間程度  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟3F 310会議室（大会C会場）

内容：今回は，PM2.5をはじめとした粒子状物質（エアロゾル）に関して，気象学会では最近あまり取り上げられていない観点から，2件のご講演を予定しています。

(1)「東アジア域における粒子状物質の現状」高見明憲（国立環境研究所）

国環研が行ってきた九州沖縄地区での粒子状物質の観測結果や，EANETなど外部の観測データなどをもとに東アジア域における微小粒子状物質の濃度分布，化学組成，越境大気汚染の現状について解説する。さらに微小粒子状物質の健康影響についても簡単に紹介する。

(2)「大気汚染防止の法制度に関して」手島裕明（環境省水・大気環境局大気環境課）

日本における大気汚染防止のための法制度に関して，その歴史や昨年度に環境基準の設定が行われた粒子状物質（PM2.5）の場合などを例に，あらましを解説する。

世話人：笠井康子（NICT），川上修司（JAXA），河本 望（RESTEC），永島達也（環境研），高島久洋（JAMSTEC），村田 功（東北大院環境科学）

連絡先：村田 功（東北大院環境科学）

TEL: 022-795-5776

FAX: 022-795-5775

### 気象教育懇談会

日時：2011年5月20日（金）（大会第3日）17:30～2時間程度  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟3F 309会議室（大会B会場）

テーマ：「身の回りの危機管理と気象教育」

内容：私たちは局地的豪雨などの極端気象現象に出会ったとき，「危ない」「危なそうだ」「大丈夫だ」といった判断を何を基準にして下しているのか，あるいは判断を下せないでいるのか，もし，判断を下せないのであればその理由は何か。

一般的に熱中症，豪雨，落雷，豪雪，突風（竜巻）など

気象が原因となる事柄についての理解が十分とはいえない。昨年から市町村単位の警報・注意報が発表されるようになったが，極端気象の増加により気象情報は追いついていない。こうしたなかで，私たちはいかにして自分自身を守っていくべきか，いろいろな情報と現象を合わせて読み解く能力をどのようにして身につけたらよいか。

このようなテーマをふまえて，気象関係者に求められていることや出来ること何であろうか，防災科学と気象の側面も含めて学校教育と社会教育の場面から考えてみたい。詳細が決まりましたら，教育と普及委員会のHP（<http://www.wsoc.nii.ac.jp/msj/kyoikuhukyu/>）に掲載致します。

世話人：石原幸司（気象研），宮下 敦（成蹊中学高校），島山正恒（聖光学院）

問い合わせ先：教育と普及委員会

島山正恒（聖光学院中学高校）

TEL：045-621-2051

E-mail：hatakeya@hotmail.com

### 極域・寒冷域研究連絡会

日時：2011年5月20日（金）（大会第3日）17:30～2時間程度  
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

センター棟3F 310会議室（大会C会場）

趣旨：極域は地球温暖化の影響が顕著に現れる地域とされ，温暖化に対して脆弱な地域と言われています。これは大気と地表面間の熱輸送量に大きく影響する海水や積雪の有無，あるいはその形成期間が地球温暖化によって影響を受けやすいことが原因の1つとして挙げられます。こうした極域の現象の気候モデル内における再現性は将来予測の観点からも，また観測データの評価の観点からも重要であると考えられます。

極域の気候変化は，気候モデルの中でどのように再現され，予測されているのか？ その再現性の評価や，将来予測に対する信憑性の評価をどのように行うべきか？ こうした関心事を念頭に，IPCC AR4/AR5に貢献する日本の温暖化予測モデルの改良点とそのパフォーマンスについて専門家に解説していただきます。

今回は日本を代表する2つの気候モデルの専門家をお迎えして，AR4以後の改良点と現時点での計算の進捗状況について極域気候の再現性の視点から講演していただき，さらにこれらのモデル出力を研究に利用するにあたり，データ取得方法やAR5に貢献するためのスケジュール等について情報提供をします。当日，飛び入りでの話題提供も歓迎いたしますので，たくさんの方のご参加をお待ちしています。

話題：「気候モデルの極域の再現性」

「MRIモデルの現状と極域再現性」

保坂 征宏（気象研究所）

「MIROCの現状と極域再現性」

小室 芳樹（JAMSTEC）

「モデルデータの取得と利用方法」

堀 正岳（JAMSTEC）

問い合わせ先：堀 正岳（JAMSTEC）

TEL：046-867-9489，FAX：046-867-9455

E-mail：mehori@jamstec.go.jp

URL：[http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl\\_index](http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index)

## 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設として、次の施設を紹介致します。

- セルリアンタワーポピンズキッズルーム  
〒150-0031 東京都 渋谷区桜ヶ丘 26-1  
セルリアンタワー東急ホテル 3F  
TEL: 03-5728-1377, FAX: 03-5728-1377  
[http://www.poppins.co.jp/room/index.html#shibuya\\_ku](http://www.poppins.co.jp/room/index.html#shibuya_ku)  
アクセス：渋谷駅から徒歩約5分  
利用可能時間・利用料金：  
10:00～19:00 (20:00\*まで延長可)：2,625 円/1 時間  
8:00～10:00\*, 20:00～23:00\*：3,150 円/1 時間  
※利用日の2日前までに連絡が必要

(2名以上の兄弟・姉妹の場合割引あり)  
持ち物：食事 (ルームサービス可)、おやつ、おむつ、着替え、保護者の身分証明書

大会実行委員会では、利用料金の一部を補助する予定です。上記の施設、またはそれ以外の保育施設の利用等、保育支援をご希望の方は、できるだけ早く下記担当者までご連絡ください。なお、それ以外のお問い合わせにもできる限り対応致します。

連絡先：山内 恭, 平沢尚彦 (国立極地研究所)  
E-mail: [yamanou@nipr.ac.jp](mailto:yamanou@nipr.ac.jp), [hira.n@nipr.ac.jp](mailto:hira.n@nipr.ac.jp)  
TEL: 042-512-0604, 042-512-0685

## リクルートブースの試験的導入について

日本気象学会と日本学術会議地球惑星科学委員会国際大気科学協会 (IAMAS) 小委員会は、若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、今大会から大会会場にてリクルートブースを試験的に導入することとしました。これは、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者が、広く民間企業にて適職に出会うのをサポートするための試みです。ブースでは、企業の就職担当者と就職を希望する参加者との間で直接情報交換をして頂きます。参加予約等の手続は不要です。

ブースはポスター会場内に併設し、原則として毎日コアタイム (ポスター発表時間～昼休み) にのみ、企業側担当者が対応します。各企業のブースは原則として2日間のみ開設されます (以下のリストで、大会1・2日目開設は\*、

3・4日目開設は#)。但し、展示を行なう企業のうち予め届出を頂いた企業については、展示ブース (ポスター会場に併設) にリクルートブースを併設して頂きます。この場合、4日間にわたるブースの開設も可能であり、コアタイム以外の対応も可能なケースもあります。

なお、リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです (2011年3月31日現在; 50音順)。

株式会社グローバル オーシャン ディベロップメント\*  
株式会社セネコム (展示ブースに併設)\*#  
日本カノマックス株式会社 (展示ブースに併設)\*#  
一般財団法人日本気象協会 (展示ブースに併設)\*  
株式会社三菱総合研究所\*

## 日本気象学会2011年度春季大会 後援・協賛企業・団体等一覧

今大会の開催に当り、以下の企業・団体からご支援を頂きました (2011年3月31日現在; 50音順)。厚く御礼申し上げます。

英弘精機株式会社  
学術図書印刷株式会社  
三報社印刷株式会社  
株式会社セネコム  
全日本空輸株式会社  
ダイヤモンド エア サービス株式会社  
東京ダイレック株式会社  
財団法人日本宇宙フォーラム  
株式会社日本エレクトリック・インスルメント

日本カノマックス株式会社  
一般財団法人日本気象協会  
日本電気株式会社  
株式会社ニューテック  
ヴァイサラ株式会社  
三菱電機特機システム株式会社  
横河電子機器株式会社  
リアルコンピューティング株式会社

## 秋季大会の予告

2011年度秋季大会は、2011年11月16日 (水) ～18日 (金) に名古屋大学で開催される予定です。